



パラミータの炎《テグセル・キオ①》
石川英輔
朝日ソノラマ（文庫）
（9/30刊・¥390）

ある日突然に滅亡した地球。天才科学者キオは、頭の中で響く「声」に導かれるままに、ラグランジュポイントのスペースコロニーから地球へと飛来する。地上では、潜水艇ベロポネス号に乗り組む、わずかな人々だけが生き残っていた。かくして、地球再生の鍵を握る謎の鉱石「バイタライト」を求め、キオと女船長リオーナは、新しく宇宙船に改造された船を駆って旅立つのだ。古代超文明の遺産、襲いかかる悪い科学者——しかし前途に立ち塞がる障害を、キオはその頭脳で切り抜けていく。

地球滅亡——なのだが、悲壮感はなく、軽快に話は進んでいく。ちょっと気弱な主人公と、強気な女船長のキャラクターが楽しい。ただ、その点以外を考えると、これといって目新しさのない話なのだ。けれど、作者のSFに対するカンがしっかりしているから、特に気にならない。しかし、このシリーズは、むしろ次からの進展を期待した方がいいのだろう。本書だけで解決されなかった内容も、かなり残っている。人物と設定が整ったところで、今後どう動いていくかが楽しみだ。